

日本原子力学会 第 141 回倫理委員会  
議事録

1. 日 時：2023 年 12 月 14 日（木）14:30～17:00
2. 場 所：原子力学会会議室と Web 上でのハイブリッド
3. 出席者：会議室 手柴副委員長，伊藤(公)委員，大久保委員，沖田委員，福家委員，藤田委員  
Web 大場委員長，塩満委員，伊藤(聡)委員，中村委員，中野委員(委員 14 名中 11 名出席)  
後藤特別委員，小林特別委員，佐藤特別委員

4. 資 料：

- 倫 141-1-1 前回議事録（案）
- 倫 141-1-2 委員の承認等について
- 倫 141-2-1 倫理委員会活動計画
- 倫 141-2-2 倫理委員会役割分担表
- 倫 141-3 2024 年春の年会企画セッションに係る企画・準備について
- 倫 141-4-1 次回倫理規定改定に向けた検討について
- 倫 141-4-2 倫理規程改定検討シート
- 倫 141-5 倫理委員会活性化に関するアンケート

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

大場委員長から資料 141-1-1 に基づき説明があり，内容について特に異議はなく，了承された。

(2) 委員候補の承認について

大場委員長から，資料 141-1-2 に基づき，三菱重工業 沖田康典氏の委員就任が 11 月 2 日理事会で承認されたことについて報告があった。

また，三菱重工業 沖田康典氏から委員就任にあたり，御経歴の自己紹介や委員としての所信表明等があった。

(3) 活動計画および役割分担について

手柴副委員長から資料 141-2-1，141-2-2 に基づき説明があった。主な議論等は以下のとおり。

- ・技術倫理協議会の予実績：12/4 シンポジウムが開催された。シンポジウム内容について情報入手した方おられれば，共有頂くこととした。また，その他予実績について，中野委員から連絡があった。（実績 10/16,11/20，予定 1/22）
- ・倫理研究会の開催計画については，別途議論していく。
- ・年会・大会での企画セッションについては，学会理事会で 2025 年春以降，春の年会はオンライン開催，秋の大会は対面開催との運営方針が示されている。2024 の春の年会は対面開催であることが再確認された。

#### (4) 2024 年春の年会企画セッションについて

伊藤(公)委員から資料 141-3 に基づき説明があり、引き続き検討を進めていくこととした。主な議論は以下のとおり。

- ・企画セッション提案書を事務局提出済み。
- ・テーマを「組織文化の醸成とは～安全文化，安全管理，技術者倫理との観点も踏まえて～」に若干変更した。これは，セッションに登壇いただく原子力規制委員会（NRA）伴委員，文教大学長谷川先生との議論の中で，「組織文化」と表出ししたほうが，安全文化，安全管理，技術者倫理との関係性を話しやすくなるとの結果による。
- ・セッションプログラムとして，倫 141-3 添付の通りとした。
- ・伴委員には，NRA で議論している安全文化の取り組みや，QECD/NEA での各国の安全文化についての議論等の紹介，その後長谷川先生の講演にて安全文化，安全管理，技術者倫理の関係性について講演いただく流れとした。
- ・前回の倫理委員会でも議論となった，長谷川先生の参照文献が古いものであることについては，ご本人もその後の研究での成果を含めたものとしたいとの話があり，今回のセッションテーマに沿った最新の内容とする旨報告があった。
- ・総合討論については，安全文化の取り組みについて事業者を代表して佐藤特別委員に口火を切っていただく発言をしていただき，伴 NRA 委員，長谷川先生と会場でパネル討論をする。
- ・セッションの事前打ち合わせとして，11/28 伊藤（公）委員，中村委員，菅原委員，大場委員長，手柴副委員長と，伴 NRA 委員，長谷川先生とでセッションの内容についての議論を行い，ほぼ（上記のように）確定しているが，予稿が出来た時点や，発表資料が出来た時点等，適切な時期に，セッション担当委員，座長（手柴副委員長），大場委員長＋αで，ざっくばらんな事前擦り合わせの機会を設けることとした。なお，セッション当日，少なくとも 12 時 30 分には集合して段取り等の打合せを実施することとした。
- ・セッション当日のスケジュール，役割分担についても，資料の通りとすることで現時点では異論なし。参加メンバー確定時に再確認する。
- ・登壇いただく長谷川先生への旅費，謝金について，同氏が原子力学会員ではないため学会より支給いただくことについて，委員会として承認した。なお，伴 NRA 委員は，謝金，旅費の支給はご辞退。

#### (5) 次回倫理規程改定に向けた検討について

次回倫理規程改定案について，倫理規程検討改定シートに追加提案して頂いた藤田委員，沖田委員より改定案の説明があった。主な議論は以下の通りで，次回の倫理委員会まで各委員による個別検討箇所の抽出を終了し，次のステップである憲章ごとの検討，論点の横串を通した検討に進むこととした。

- ・これまでの改訂活動を詳細には承知していないが，規程を読んで率直に感じたことから改定案を提案した。
- ・規程を読んだ際に，繰り返し記載されている内容があることに気付いた。意図的にそうしているものもあるように思うが，読みやすさの観点では，可能な限り集約することを考えてみた。

- ・また、実際行動することを考えた場合、現実的ではない記述となっていないか検討してはどうかと考える。
- ・労働安全についての規程は、美浜の配管破断による人身災害に鑑みて、労働安全を独立した条項とした経緯がある。
- ・これまでの倫理規程改定の経緯を、大場委員長より概略説明があった。
- ・個々人の業務経験からのフィードバックを規程改定に考慮してはどうか。例えば、研究者に規程を持ち帰ってもらって、どう思うか等。
- ・今まで、改定の議論に参画していない方々のフレッシュな意見も歓迎したい。
- ・今回改定提案があったように、「個々の業務からのフィードバック（気づき）の観点」「記述の重複排除」の観点も検討の方法の中に書き加えておくこととしたい。
- ・次回の委員会までに各委員からの改定案を提出してください。

#### (6) 倫理委員会活性化に関するアンケート結果について

大場委員長より、各委員にご協力いただいた倫理委員会活性化に関するアンケート結果について、資料 141-5 に従い説明があった。

活性化施策については、今後も議論することとするが、以下の施策を実行することを決定した。

- ・web 会議では、基本的に常時カメラ ON とする。但し、都合が悪い場合は OFF として良い。
- ・今後の委員会開催方式は、ハイブリッド方式とする。面着会場については、大場委員長と学会事務局にて調整頂く。
- ・委員会日程の決定方法は、従来と同じく、委員会開催後、速やかに 3 役で候補日選定し、2 週間程度で、各位委員の都合を確認、より多くの委員が参加できる日程を次回の開催日程とする方法を継続する。
- ・5-③、④倫理委員会としてやるべきこと、やりたいことについては、もう少しブレークダウンした設問のアンケートを実施する。委員会の良さを追求したい。

アンケートについての主な結果の説明と議論を下記に示す。

- ・委員会の仕事の負担感の軽減が課題。委員会のアウトプット（意義）とのバランスをよくすることが大切に思う。
- ・委員構成について、若手に入ってもらえることが良いとする意見が多い。どうすれば若手が増えるかを考えたい。学生は入るかもしれないとも思った。
- ・専門家も入ってもらおうという意見も多い。
- ・任期について、自身の委員長期間も長くなっている。問題とも思える。倫理を取り扱う委員会として委員長の責任、覚悟が必要で、そこが他の委員会とは違うと思っている。（
- ・委員会の時間については、これまで短縮化を図ってきた。委員会の仕事を、業務時間に実施できているという回答が多く、心配は減った。
- ・委員としてやるべきことと、やりたいことについて、現在委員会が取り組んでいる内容とほぼ一致している。
- ・活性化している状況については、活発な発言があることというご意見があるが、これは web 会議が足枷になっていることが無いのか。対面の方が発言しやすいのでは。

- ・対面の方が表情の確認ができたり，発言のタイミングが取りやすい。
- ・web 会議においても，カメラで表情が分かる方が良い。
- ・国際会議では web でも問題なく実施されている。
- ・遠方からの対面参加は負担かとの発言については，東京に出てくるのが楽しみにもなっていたり，委員会後の懇親会での議論も重要との意見があった。
- ・通信の状態によりカメラ映像があると通信が重くなることがある。
- ・委員会開催日程の決め方については，今の方法で良いことを確認した。
- ・委員の構成について，若手は確かに良いと思うが，積極的に意見を言ってくれる人が良い。
- ・若手の人には倫理委員会への入り方，委員になる方法が分からないのではないか。
- ・委員になる方法やオブザーバ参加の方法等，委員会への参加方法についてアナウンスメントが必要と思う。
- ・委員会活動についてのアンケートを取る等から，興味を持ってもらうことも良いのでは。
- ・委員になるのは時期的なものもあると思っていたが，常時（適時）委員になれるということであれば，それもインフォームしたほうが良い。
- ・委員会を知ってもらうことを目的としたオンラインイベントの開催という手もある。
- ・WG に入ってもらって，それから委員になってもらうような段階的な策もある。

6. 次 回：2024/2 月頃に対面と Web のハイブリッドで開催することとし，日程については別途調整することとした。

以上